

Stephano XR 2ピースで高性能ステファーンXR

Xシート フロントトリガー

●軽量高感度のフィッティングサポートC14+シート

▲通常は人差し指にかける。スナイパー持ちでは支える程度
▶トリガーはリールのほぼ真下に

●センターカット2ピースは携帯性に優れているだけでなく、手元にパワーを持たせ穂先を柔軟にした継ぎ竿ならではの調子を出している。軽さとパーミング性能を融合したXシートフロントトリガーの搭載に加え、スパイラルXコア、ナノピッチ、タフテック、ハイパワーXソリッド、Xガイド、フィッティングサポートC14+シートなどのシマノテクノロジーを搭載。最先端「X」テクノロジーの融合体、XRブランドをまとった新感覚のカワハギロッドの誕生だ。
「2ピース仕様、初のトーナメントロッドです」と鈴木孝さんが太鼓判。

▲絡み防止にもひと役買うXガイド搭載

| 品番 | 全長 (m) | 継ぎ方式 | 継数 (本) | 仕舞寸法 (cm) | 自重 (g) | 先径 (mm) | オモリ 負荷 (号) | リールシート 位置 (mm) | リールシート タイプ | カーボン 含有率 (%) | 本体価格 (円) |
|---------|--------|------|--------|-----------|--------|---------|------------|----------------|------------|--------------|----------|
| M180-2 | 1.8 | 並継 | 2 | 94.5 | 67 | 0.8 | 20~35 | 297 | DOWNLOCK | 99.2 | 47,000 |
| MH175-2 | 1.75 | 並継 | 2 | 92 | 68 | 0.9 | 20~40 | 297 | DOWNLOCK | 99.2 | 47,500 |
| H170-2 | 1.7 | 並継 | 2 | 89.5 | 66 | 0.9 | 20~40 | 297 | DOWNLOCK | 99.1 | 48,000 |



▲見た目も鮮やかなスナイパー持ちの合わせ



▲アイテムにより釣り方も変えながら数を重ねる
▲20センチ前後がメイン、放流サイズは交じらなかった



▲後半になって調子を上げてきた



▲船中の最大は25センチだった

3アイテムの調子



●オモリ25号をぶら下げて調子を見る

M MH H



★新形状のXシートフロントトリガー搭載



★センターカットの進化形ステファーンXR、新しいカワハギ釣りが見えてくる

TECHNOLOGY OF S

最新シマノテクノロジーの実証 テクノロジー・オブ・エス vol.78

カワハギ釣りが見えてくる「ステファーンXR」の実力

三浦半島 葉山芝崎 出船より

●今シーズンのカワハギはやや出遅れている気配。昨年同様、本格化は晩秋あたりとなりそうで、これからカワハギ釣行を計画する方も多いはず。そこにおすすしたいのがシマノから新登場したカワハギ専用「ステファーンXR」、名手鈴木孝さんの実釣をもとに解説をお願いした。

▶並継ぎ仕様。強度や耐久性に関しても問題なし



▲葉山沖の水深10～25メートル前後を幅広く探った
▶アイテムは3種、好みで選ぶか状況で使い分けるか



「この日は各所を移動しながらの拾い釣り。トップで10枚ほどの渋い釣りだった。鈴木さんは3アイテムの調子特性を披露しつつ、あと少しで2ヶタというところで13時の納竿を迎えた。」

2.ピース、軽量設計、Xシートフロントトリガー、それにいくつものシマノテクノロジーが搭載されたのがステファーンXR。カワハギ釣りの引き出しを増やし、これまで味わったことのないアタリを体感できるに違いない。

前後で釣り開始。ところが、鈴木さんがいきなり18センチのカワハギを釣り上げてしまった。「いや、事故みたいなのもです」と照れ笑い。これを機に船中でもアタリが出始めるものの、ポツンポツン程度。2枚目は1時間近くかかってしまった。ポイント形状は砂地に根が入り交じった状態、潮も流れていないが、やや底潮が重く感じると分析する。

「釣り始めれば分かりますが、まったく継ぎを感じません。手元のパワーが増し、掛けやすさと操作性がよくなっています」

「今日の潮具合だとH、つまり硬めの調子が合っていますね。投げてのカーブフォール、着底後や宙での手感度アタリがよく出ます」

「潮のせいで仕掛けが張り気味となるので、目感度が出にくいというのだ。1時間ほど釣って今度はHにチェンジする。」

「今日潮が重いせいかな、小さなアタリが出にくいですね」

穂先の曲がりから見て、食い込みを優先した目感度重視の調子が確認できる。集寄を付け、ゼロテンからテンションを抜いた釣り方を駆使する。

「止めて食わせたり、仕掛けをタルマセ気味にしてアタリを取る釣り方に向いています。でも今日は潮が重いせいかな、小さなアタリが出にくいですね」

「今期初めての釣り場なので、パイロットを兼ねています」と鈴木さん。MHは中間の硬さ、つまりオイルラウンドタイプで海底の状況、潮の流れ、エサ取りの活性などを中間の調子でリサーチしていくわけだ。

10分も走った水深20メートル

「ひとことでは言えば進化した2ピースロッドです」と、シマノインストラクター鈴木孝さん。発売されたばかりのカワハギ竿「ステファーンXR」はセンターカットの2ピース仕様だ。これまでハイエンドなカワハギ竿といえばワンピースが当たり前、ひと昔前に回歸するような2ピースの新製品に、どんな特長があるのだろうか。

ステファーンXR、3アイテムを持参して釣行したのは三浦半島葉山芝崎の五エム丸。同宿では9月中旬から乗合をスタートしたばかりだ。強い北東風とウネリの中、6時に港を離れた。「3本とも60グラム台の軽さ。加えてXシートフロントトリガーが付いています」

人差し指で支えるシマノオリジナルのグリップ形状はホールド力のアップで緻密な仕掛け操作、キャストの安定、巻き上げ力のアップ、脱落防止、指の負担も軽減するという。

まず手に持ったのはMH175。「今期初めての釣り場なので、パイロットを兼ねています」と鈴木さん。MHは中間の硬さ、つまりオイルラウンドタイプで海底の状況、潮の流れ、エサ取りの活性などを中間の調子でリサーチしていくわけだ。

10分も走った水深20メートル